

私の大原ベストポジション



大原草紙



第 65 号
平成 30 年 10 月
秋季号

来迎院町 中辻美和



夏が終わり、秋になると山を赤や黄に染めあげる紅葉よりも、なぜか黄金色に染まる稲田を思い出す。様々な食物を生み出す田や畑は、物心ついた時から身近に感じるものだった。それは遊び場でもあり生き物にふれあう場所でもあり、農業の大変さや命について学ぶ教室のような存在であった。

重たい稲穂が頭垂れる時期には赤とんぼをさがして畔道を兄と手を繋いで歩いた。頭には麦わら帽子、虫取りあみと虫かごを手に、とんぼを捕まえることが下手な私はもっぱら虫かご担当で。すぐくすぐく遠い記憶になってぼんやりとしか思い出せないけれど、綺麗な夕日を浴びてキラキラと輝く陸稲を兄とかき分け進んだ畔道は、どうしても驚くほど鮮やかに蘇ってくるのだ。

こうして懐古する今、年を重ねるごとに変わらない秋と変わっていく自分に一抹の寂しさを感じることも度々あるが、その記憶の中にいつも家族がいたこと、その自分が今の私をつくったのだと再確認する度に、言葉にできない温かい気持ちにもなるのだ。

彼そ誰時の空は、いつ見ても優しく美しい絹で出来たベールのような色をしている。その下に輝く黄金色の風景は私に少しの癒しと今を生きる力を与えてくれているのかもしれない。

前号以降の 大原里づくり協会の活動

去る6月9日開催された里づくり協会年次総会で承認された新役員は次の皆さまです。

顧問	土井 孝雄
顧問	和田野光彦
理事長	榎並 博一
副理事長	上田 壽一
常務理事	阪後 武史
常務理事	高倉 哲法
理事	久保 満
理事	多紀 頼忍
理事	藤井 宏全
理事	西田 誠
理事	安田 真
監事	久保 勝
監事	中林 義夫
サポーター	
ホームページ	竹腰 幸司
大原草紙	高田潤一朗
大原草紙	安倍百合子

新役員の就任抱負

新理事 安田 真



大原在住ではないのですが、ご縁を頂き、昨年度よりサポーターとしてNPOの様々な活動に携わってまいりました。今年度からは理事の一員として、メンバーに加えて頂くこととなり、気持ちの引き締まる思いでおりますが、大原の魅力発信のための力添えになりますよう微力ながら頑張りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

新監事 中林 義夫



大原は適度な規模の大きさの地域社会だと思います。地域住民の皆様方が、かなりの数の地域住民の人たちの名前、顔をお互いに知っておられます。これは地域として何らかの行動を起こすとき大変有効に働きます。この利点を最大限に生かして京都大原里づくり協会を盛り立て、今の時代に合った大原地域の発展の小さな一助になりたいと思います。

(西田誠理事は監事からの役職変更)

7月・8月の活動から

第26回惟喬親王祭

7月16日(月・祝日) 東近江市蛭谷町一行18名で参加しました。



蛭谷町出身の小椋正清
東近江市市長の挨拶

第14回高野川水生生物調査

7月26日(木) 京都大原学院
【6ページ目に別記】

御香水支援活動

7月28日(土) 上野町久保家

参拝者に御香水の説明をする上田寿一さん。地元で御香水の支援活動を続けている。

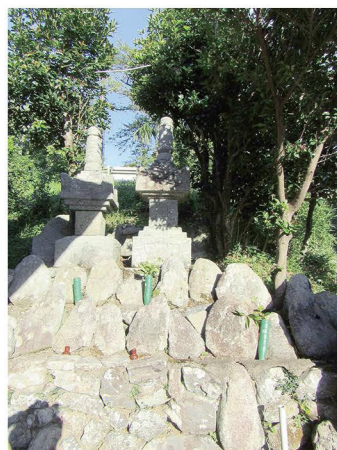


大原地域史跡調査

8月19日(日) 大長瀬町 9名参加

【次回開催ご案内】

○9月30日(日) 午後3時〜
上野町公民館
○11月25日(日) 午後3時〜
戸寺町公民館(予定)



大長瀬 石塔

会員募集・原稿募集中

お気軽にお問い合わせください

- 一般会員 年間 3000円
- 賛助会員 年間 1000円

表紙の横顔

中辻美和さんプロフィール

来迎院町出身、2011年大原学院卒。2018年10月現在、イングラウンド・シエフィールド大学法学部在籍中。八朔前座のこども踊りでは道念を唄うなど、ルーツである大原を大切にする多趣味な才女。

大原が歩んだ
明治・大正・昭和・平成
の写真アルバム

明治から数えて150年。ゆるやかに時が流れた明治・大正・昭和の昔。戦後の昭和40余年と平成の30年は急激な変化の70年余り。大原の150年を記念アルバムにして残します。

写真を提供して下さい

皆さんのお家で「眠っている」「処置に困っている」「捨てるに忍びない」などなど、古い写真を、お貸し戴くか、ご寄付ください。記念アルバムや、資料として保存いたします。プライバシー、その他ご意向を大切に致します。

◆発行予定…2019年5月

◆(平成の最後の月の翌月)

◆有料販売…出来るだけ低価格

(写真を提供戴いた方は無料進呈)と考えています。

◆お問合せ

里づくり協会担当者西田誠
又は役員まで

担当者連絡先(西田)

09046490633

大原今昔物語

大原の戦前とごく最近を並べました。



【昭和20年代】 井出町消防器具倉庫 元消火水槽 工事の様子 (右写真)



【昭和10年代】 昔の校舎玄関は集合写真のスポット



【昭和14年】 学校の運動場



平成30年惟喬親王 1122年鑽仰御遠忌法要

惟喬親王は平安時代の初め、第55代文徳天皇の第一皇子として生をうけられました。当時の時代を巡る諸事情のなかで皇位を継承することなく、洛北や近江など各地に隠棲し、その生涯を終えられました。

親王は椀や盆など木器の製作に欠かせないロククロ技術を授けた始祖として、近江の蛭谷や君ヶ畑を基点に全国各地の木地師の里で仰ぎ親しまれてきたことでも知られています。

大原にも、親王の住まれた付近の址が御所田や馬場田として名を残し、また、その奥の森には五輪塔が墓とし

第一部
法要 10:00～10:50
魚山一山
主催者代表ご挨拶

第二部
講演会 11:00～11:50
「洛北雲ヶ畑に伝わる
惟喬親王伝説」
講師 波多野 元三郎 様
散会 12:00 (予定)

場所 大原 勝林院本堂
日時 平成30年10月10日 (水)
受付 9:00から

雲ヶ畑と惟喬親王
● 惟喬親王社
旧出谷村の産土神で惟喬親王に供奉していた人々が親王の霊を祀った神社と伝えられる。一説によれば、親王が田や猟をする時に寵愛した雌鳥が、ここで病死し遺骨を埋めたという言い伝えから「雌鳥社」ともよばれている。

● 高雲寺
九龍山と号し、臨済宗永源寺派に属する。惟喬親王が閉居された宮跡と伝えられ、貞観11年(869)親王がここで落飾され、宮を改めて当寺を創建したといわれている。

《京都市北区役所発行
雲ヶ畑散策マップから》

て古くから伝わっております。大原で「明治14年に開催された親王一千年忌および弘化3年の九百五十年忌の法要記録」の古文書が見つかったことをきっかけに、惟喬親王の遺徳を偲ぶひとときを開催いたします。

皆さまのお参りをお待ちしております。

■ 主催 惟喬親王1122年
鑽仰御遠忌法要実行委員会
実行委員会事務局 西田 誠
090・4649・0633

■ 連絡先
【※荒天中止】荒天時の開催については前日18時以降にお問合せ下さい

今秋の勝林院行事案内

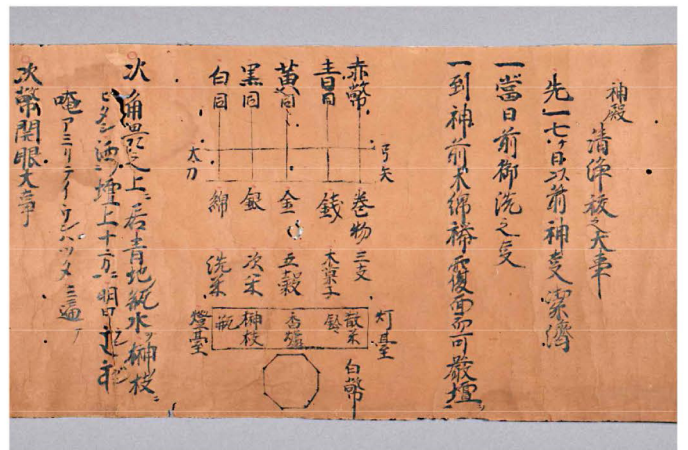
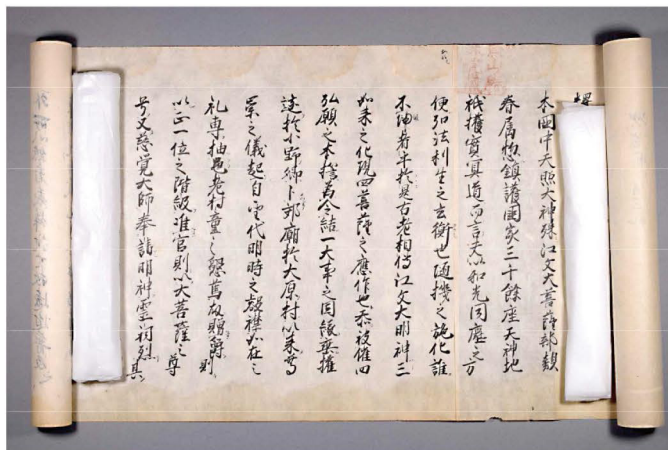
勝林院修復事業 文化財特別公開

平成30年は、神仏判然令（神仏分離令）が交付施行されてから150年という節目の年です。いまでは神社と寺、神と佛はべつの存在として信仰されるのが当たり前となりましたが、じつはこの信仰形態のはじまりは明治維新にあったのです。日本に仏教が伝来して以来、神と佛は表裏一体な存在であるとして同一視する「神仏習合令」という信仰の仕方が少しずつ定着していきました。あるときは産土神として土地を守り、またあるときは佛菩薩として民衆の苦しみを救う。今とは少し違う、当時の人々の宗教観を知るときつけなければと思います。

■勝林院文化財特別公開 神仏習合

会期…平成30年11月10日(土)～18日(日)
 時間…午前9時～午後4時30分
 会場…勝林院本堂内
 住所…京都市左京区大原勝林院町187
 拝観料…500円
 出展史料…江文講式・遷宮作法・神前密
 教儀式次第・両院僧坊歴代記・
 江文明神御神名軸など
 問合せ…實光院

075-744-2537
 jikkoin@gmail.com



勝林院研究会

上田 壽一

第3回研究会（7月14日）から毎回研究会前半はゲストをお呼びしています。今回は草生町在住の宮本様。能楽師の方で、能についてわかり易く解説して頂きました。

私が特に注目したのは鏡板（老松が描かれている）で、本来能は大木を前にして行う祈りに近いもので、鏡板の松はその大木が写ったものとの説明を受けました。

後半は勝林院脇仏の見積書と、勝手社が声明の守護神であるとの文書を読んでみました。

▼今後予定

9月8日(土) 午後7時30分
 11月10日(土) 午後7時30分
 場所…京成大原学院



来迎院町の勝手神社を拝見

5月27日の「大原地域史跡調査」は来迎院町。打合せの時、勝手神社に神輿があったがどうなっているやらか、という事からこの日京都市文化財保護課からの職員を交え拝見に伺った。

神輿倉に収まってから随分時間が経過している様子、几帳という幕状の物には寄進者の名前や年代が残っていて「正徳二年几帳御寄附」西暦1712年、なんと306年まえだ。来迎院町の方々の意向を基に装具を整え整備し復興出来ないか思いは膨らんでいます。





夏季大会 京都市大会 準優勝!!

編集部 西田 誠

今春から「京都市立大原小学校」が正式名称。ソフトテニス部の活躍に他校の関係者から「強いハズやテニスを小学校からやっている」と。顧問の野口先生は苦笑された。

中学生の大会は2人1組。団体チームは6人3組。個人は2人1組。大原の男子部員は7年生から9年生で7名。女子は4名で団体チームは人数不足。

野口先生に大原チームの強さのナゾを聞きました。「コートが3面などの施設の充実、悪天候時の体育館使用も可能で短時間の練習で内容が充実」「9年生がリーダーとして面白くない地道な練習を率先してやり遂げたチームワーク」など。少人数の有利さが伸ばせた。しかし、学院生は学校内では一人何役もこなすため部活だけに専念できないようです。

野口先生の大原在勤歴は前期3年、中断他校8年、目下10年目、トータル13年の指導力。夏季大会の準決勝、決勝戦に出た控え選手の活躍をとて印象的に聞かせて頂きました。

夏季大会は全国大会まで開催される大会。舞鶴市で開催された府下大会で男山第三中学校（八幡市）に敗退しました。



高野川水生生物調査から

7月26日、毎年恒例になっている第14回高野川水生生物調査が開催されました。毎年参加している学院生も多く、みんな楽しみにしていました。京都大学防災研究所の竹門先生に高野川にすむ水生生物の歴史的な話や川の地形の話など興味深い話を聞いて、いよいよ調査開始です。午前中は高野川上流地点、宮川合流地点、太田ゆね地点に入り、流れの速さの異なるいろいろな場所です水生生物を採取しました。「どじょう、カワニナ、かじかがエルがいたよ。」「草や石の間からたくさん採れるよ。」

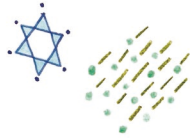
などみんなたくさん水生生物を採りました。

みんなでお昼ご飯を食べて、午後からは採取した水生生物を詳しく調べました。「水質レベルのきれいな水にいる水生生物がたくさん見られました。」「雨や森林の働きも水生生物の分布に影響を与えていること。」「など高野川の水生生物の生態についてまとめました。この取組で地域の自然や地形の特徴をとらえ、科学的思考が広がっています。地域の皆さんや関係者の皆さんの協力のもと充実した楽しい1日となりました。」





れんさいマンガ
* 64 *
アズマツネオ



明日を生きるために

地震・台風・豪雨 自然災害に備えを



平成29年7月 九州北部豪雨

《被害概要》

死者 40名
行方不明者 2名
(平成30年6月現在)

平成30年7月西日本豪雨

《被害概要》

死者 220名
行方不明者 10名
家屋全壊 5443名
家屋半壊 6597名
家屋一部損壊 3249名
(平成30年8月7日現在)

●主な府県の死者数

府県名	死者
広島県	108名
岡山県	61名
愛媛県	26名
京都府	5名

(平成30年8月7日現在)



平成30年7月西日本豪雨 大原学区では

■7月5日(木) 7:25
京都大原学院内に避難所開設

■7月8日(木) 3:40
避難指示解除(大原学区)

避難指示(緊急) 14:00
避難者数2名 大原学区に出る

避難所閉鎖 京都大原学院内の



担架の組立体験をする 京都大原学院の児童たち

みんなで減災

ここ数年、西日本各地で発生した大災害の罹災者から異口同音に「こんなことは初めて」と語られます。7月豪雨の報道を見ると、山肌深い爪痕をいれ、もしこれが大原で起きたらと考えさせられます。

◆近年の災害は従来の規模を大きく上回り、大規模であること。
◆気象情報は正確さ迅速さにおいて大きく進んで来たこと。

◆早めの避難が効果的であること。など専門家の指摘を受け止め、小まめに情報を仕入れ防御と避難を進めたいものです。

自然災害に備え不確実な確信を捨て、我が身と家族の命を守る行動をしよう

○3日間は自力で乗り切る
自力で生き延びるだけの備え・助けはすぐ来ない。
×自分の所だけは大丈夫、ということはありません。被災者の経験談で災害に備える。



小松美術館から大太鼓寄進
9月1日 八朔祭でお披露目

小松美術館から写真の大太鼓が江文神社に寄進されました。大太鼓は最大胴回り110センチ。神社に太鼓は無かったので「ハレがする(晴れがましい)」と好評です。